

『しずくちゃん』

と

『つくばねさん』



むかしむかし、“じょうはな”の^{やま}山^{おお}おくに^{いけ}大きな池がありました。

その池の^{いけ}まわりには“なわ”がはられいて、そこには^{おお}大きなヘビがふうじこまれていました。

そんな池には水^{みず}のようせいの『しずくちゃん』も^す住んでおりました。

『しずくちゃん』は、そのヘビがこわくていつもかくれておりました。

ある日、そのヘビは池の“なわ”がほどけている^みすきまを見つけて池^{いけ}を出て^で行ってしまいました。

『しずくちゃん』は、こわいヘビがいなくなったことを、たいそうよろこんで、それから^{まいにちひとり}毎日一人、池^{いけ}であそんでいました。

しかし、うれしいはずの『しずくちゃん』は、ヘビがいなくなってからなぜだか^{げんき}元気がなくなっていました。

(^{ひとり}一人であそんでいてもつまらないな・・・。)

『しずくちゃん』は、^{ひとり}一人ではさみしく、^{かな}なんだか^{げんき}悲しくて元気がなれないことに^き気がつきました。

ヘビがいなくなってから、

みるみる^{げんき}元気がなくなって

いく『しずくちゃん』。



そんなある日、あのヘビがなきながら池にもどってきました。

そのあとすぐに、人間の男の人も小さな赤ちゃんをかかえて、走ってきましたが、ヘビがかくれている分が分からなかったのか、しばらくすると、なんだか悲しそうにかえっていきました。

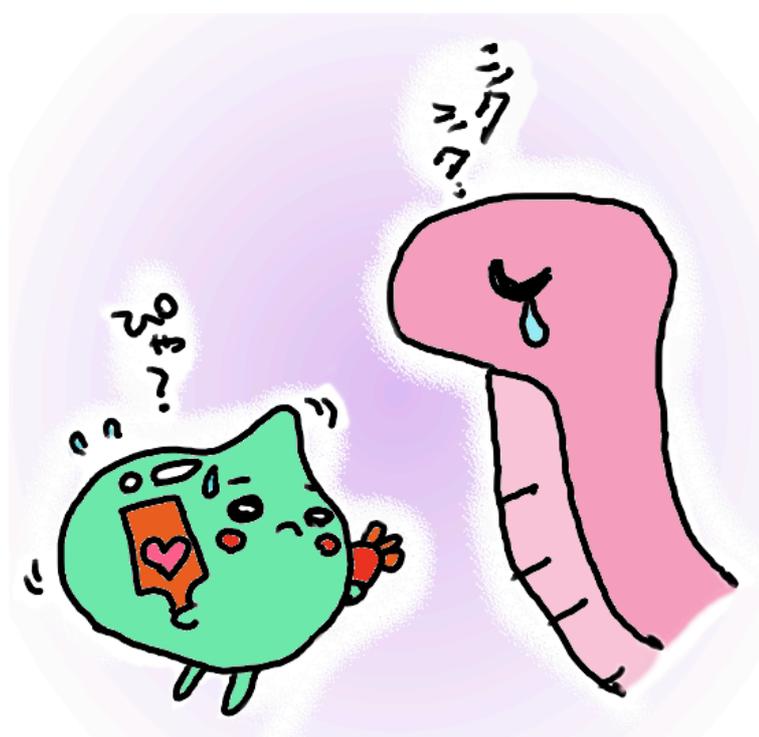
『しずくちゃん』はヘビがかえってきたおかげで、なんとか元気になりましたが、ヘビはそれから毎日ないていました。

『しずくちゃん』はこわかったのですが、勇気をもってヘビに近づきました。

でも、言葉のはなせない『しずくちゃん』は、ヘビの目を見て心の中ではなすことにしました。

(ヘビさん、ヘビさん、どうして毎日ないているの?)

そんな『しずくちゃん』の心のこえが分かったのか、ヘビは『しずくちゃん』にゆっくりとはなしました。



「わたしはむかし、えらいおぼうさんにい言われてこの池いけにきました。

人間の男にんげん おとこの人をすきになってしまい、池いけを出たのですが、その人ひとの赤ちゃんあかができてしまいました。

わたしはヘビで人間の赤ちゃんにんげん あかを、そだてられません。

だから二人ふたりをのこして、こうしてわたしだけこの池いけにかえってきました。

二人ふたりとはなればなれになったかな悲しさから、こうしてないているのです。」

ヘビはそれから何日なんにちも何日なんにちもなきつづけました。

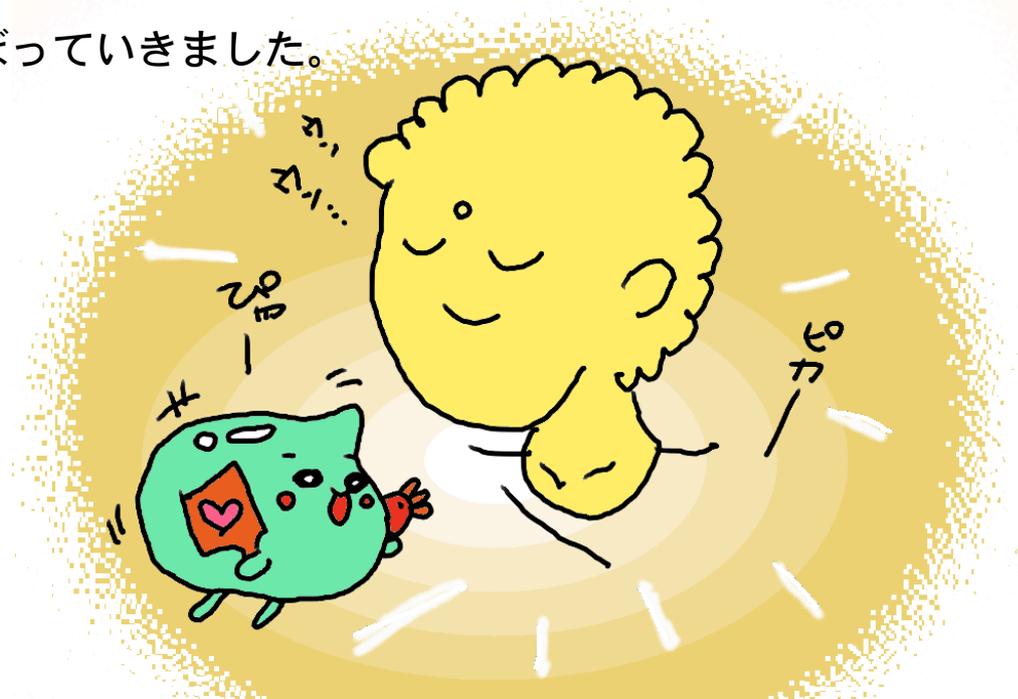
そんなヘビを見ていた『しずくちゃん』は、なんだかヘビがとてもかわいそうおもに思えました。

(やっぱり、一人ひとりではさみしくて、悲かなしくて、元げんき気になれないんだ・・・。

ぼくが、なんとか元げんき気にしてあげられないかな?)

そう思っていると、とつぜん『しずくちゃん』の体からだがフワリとうき上がり、空そらたかくにのぼっていきました。

くもの上うえについた
しずくちゃん』に
こえがきこえました。
「やさしい『しずく
ちゃん』、あなたに



みんなを^{げんき}元気にする

^{ちから}力をあげましょう。」

『しずくちゃん』が^{うえ}上を見上げると、かみさまがこちらをむいてほほえんでおられました。

そして、かみさまが『しずくちゃん』の^てあたまに手をのせられると、『しずくちゃん』は^{あめ}雨になって^{した}下におちていってしまいました。

『しずくちゃん』が^{いけ}池にもどってみると、あれから^{じゅうなんねん}十何年もたっていて、^{いけ}池の^{みず}水はなく、あのへびもいませんでした。

(へびさん、あれから^{かな}悲しくてどこかにいっちゃったのかな？

よーし、ぼくはこれから^{かな}悲しんでいる^{ひと}人たちを^{げんき}元気にするぞ！！)

『しずくちゃん』は“^{まち}じょうはな”の町におりていくことにしました。

そんな『しずくちゃん』を見ておられたかみさまは、

「『しずくちゃん』は、^{ことば}言葉がはなせないの、あなたもついていって『しずくちゃん』をたすけてあげなさい。」

と、つくばね山^{やま}のようせい『つくばねさん』に言われました。



それから『しずくちゃん』と『つくばねさん』は大のなかよしになり、
いっしょに雨あめになって“じょうはな”の町まちに行き、たくさんの町まちの人ひとを、
なかよく元気げんきにしました。

何年なんねんかして、あの池いけにかえってくると水みずがたっぷりあって、こんどは
へビのかわりにリュウがこの池いけにすんでいました。

その池いけのまわりには、また“なわ”がはってあって、みんなに『なわ
が池いけ』とよばれるようになっていました。

それからも『しずくちゃん』と『つくばねさん』は雨あめになって“じょ
うはな”の町まちに行っては、「みんなを元気げんきにしよう！」と今いまでもなかよく
がんばっているそう。

めでたし、めでたし。





『しずくちゃん』と『つくばねさん』のしょうかい。

『しずくちゃん』は“なわが池”から生まれた水みずのようせい。

右手みぎてに“つくばねのみ”、左手ひだりてに“はごいた”をもつ。

とくぎは“はねつき”で、そのときにはメラメラもえる。

“みんなをなかよくさせる力ちから”をもっている。

『つくばねさん』は“つくばね山”から生まれた山やまのようせい。

いつでもなかよしの『しずくちゃん』のあたまの上うへにいて、言葉ことばのはなせない『しずくちゃん』をたすけてあげる。

とくぎはないが、『しずくちゃん』の“はねつき”を見るみのがすき。

“みんなをしあわせにする力ちから”をもっている。

どちらもようせいなので、^{おとこ}男^この子か^{おんな}女^この子か、^{なんさい}何才^わかも分からない。

“あたまをなでられる”のが、どちらもだいすき。



おしまい

じょうはなしょうこうかいせいねんぶ こい じょうはな じっこういいんかいかんしゅう
城端商工会青年部「恋する城端」実行委員会監修